

桃園市民プール等6スポーツ施設指定管理者検討会 会議録

1 開催日時 令和元年 10 月 8 日（火） 13：00～14：05

2 場 所 北九州市役所 15 階 15C 会議室

3 出席者 (検討会メンバー)

井口構成員、河邊構成員、田代構成員、寺崎構成員、南構成員
(事務局)

市民文化スポーツ局 スポーツ振興課

スポーツ施設担当課長、担当係長、担当職員

4 会議内容

○応募団体（スピナ・シンコースポーツ共同事業体）より提案概要に関してヒアリング。

（提案書の内容につき説明）

○応募団体（スピナ・シンコースポーツ共同事業体）との質疑応答。

(構成員)

- ・提案書 15 頁について、鞍手町大谷自然公園の指定管理者業務が平成 27 年 3 月までとなっているが、何故、契約が取れなかったのか。

(応募団体)

- ・施設の機能が終了したため。取れなかったのではなく、指定管理者業務自体が更新されなかったもの。

(構成員)

- ・構成企業の決算書のうち一般管理費について交際費が少ないが実態はどうか。
また、至平成 30 日年 3 月 31 日と至平成 31 年 3 月 31 日を比べると、一般管理費が増えているが、その理由を教えてほしい。

(応募団体)

- ・決算書に誤りはない。主な取引先が公共団体であるため、ほとんど交際費が発生しない。
- ・平成 30 年度は、会社ができて 5 年目の年となり、収益が増えてきたため、初めて役員報酬を出した。

(構成員)

- ・今回の指定管理者の提案が採用された場合、報酬はどうか。

(応募団体)

- ・増益になれば増やすが、逆に減益になれば減らすことになるかと思う。

(構成員)

- ・提案書 82 頁に、障害者の施設利用に関する記載があるが、具体的にどのような研修をしているか。

(応募団体)

- ・代表企業の母体企業である西鉄グループにおいて実施する研修で座学や実習を行っている。

(構成員)

- ・施設のハード面での改善点はないか。あれば教えてほしい。

(応募団体)

- ・新プールの施設概要が分からないが、公園の園路から施設に入る際に、段差があったりする場合がある。その段差には、車止めスロープを設置するなどして対応している。

(構成員)

- ・構成企業は、公共施設を様々管理しているが、指定管理の専門会社として、管理の上で大事にしている専門性は何か。

(応募団体)

- ・幅広い年齢層、LGBTや外国籍など様々な方が利用するため公平性をもって対応することを心掛けている。全ての人にどう平等利用してもらえるか意識している。

(構成員)

- ・指定管理者として、地域のクラブとの連携や付き合う際の方針を教えてほしい。

(応募団体)

- ・クラブの方と話す機会を設け希望を把握することが大切だと思っている。それぞれの団体の特徴を知ったうえで施設を有効活用してもらっている。

(構成員)

- ・実施しているサマースクールの内容を教えてほしい。

(応募団体)

- ・管理する池と若松の施設を使い、朝から夕方までの時間帯で好きなスポーツを体験してもらおう。例えば、テニスの基礎的なことやプールで泳ぐなどの教室を実施している。

(構成員)

- ・新しいプールでの自主事業について、他でやっていないことなどあれば教えてほしい。

(応募団体)

- ・水泳教室や健康教室など今やっているものが中心になる。既存の室内プールは50mのみだが、新しいプールは50m、25mと幼児プールとなるため、今後の拡充は、可能であると考えている。そのため、まずは、今までの自主事業を継続し、その後、新たな自主事業に取り組みたいと考えている。

(構成員)

- ・代表企業が、指定管理者に参入した当初は、勢いがあり、優秀な人材が豊富にいた。それ以降も優秀な人材で業務を引き継いできているが、人員の数が変わっていないように思う。参入以後の管理施設数は、増えているが、今後も対応していけるのか。

(応募団体)

- ・十分に対応できる。

(構成員)

- ・提案書15頁について、コミュニティスペースに関する提案があるが、提案写真を見る限りでは、現実的にできるようなものではないように見えるが。

(応募団体)

- ・実際には場所に限りがあるので、あまり椅子を置きすぎないようにしている。椅子については、空いた会議室のものなどを活用している。

(構成員)

- ・構成企業の平成31年度事業計画書を見ると、九州に事業拡大していきたいことが見受けられるが、事業拡大による社員への影響や地域における人材確保はどのように考えているか。

(応募団体)

- ・人材が不足していることは事実なので、更新案件や新規案件については、確保できる雇用人数などを精査したうえで、仕事を引き受けるか否かを決めている。
- ・現在は、確保している人材を指導することや指導した後の人材をどうローテーションするかを検討している。ぼんやりではあるが、頭の中で、桃園の働くスタッフの青写真を描いている。

(構成員)

- ・桃園の場合でも、人材確保は可能と考えてよいか。

(応募団体)

- ・その通りである。核となる人材について、何名か派遣することを予定している。

(構成員)

- ・今回、初めて共同事業体を結成しているか、最後まで仲違いなく両社が協力していくことができるか。

(応募団体)

- ・それは大丈夫。今回の件で1年以上も協議を重ねている。また、西鉄グループでも構成企業とは付き合いや関係があるので、それらの点を踏まえても問題ないと認識している。

(構成員)

- ・もし取れなかった場合はどのように想定しているか。

(応募団体)

- ・別の自治体でもタッグを組み、一緒に提案したいと考えている。

(構成員)

- ・今回の書類を作成するにあたり、構成企業は参加していたか。共同事業体では、現場部門と管理部門とで分かれてしまっており、現場部門の企業が資料作成に関与していないことが、時折、見受けられるので確認したい。

(応募団体)

- ・フォーマットは代表企業の既存のものであるが、資料作成に関与した割合としては、半々程度である。

(構成員)

- ・建物の維持管理で気を付けていることは何か。

(応募団体)

- ・日常点検が重要だと考えていて、スケジュール管理や小まめな修繕により長寿命化を図っている。

(構成員)

- ・構造部などでは、点検の際に、どこに重点を置いているか。

(応募団体)

- ・桃園に限らず、共通して言えることは、外壁や水回りを特に気にしている。

(構成員)

- ・ミステリーショッピングリサーチの提案について、これまでリサーチを続けてきた結果で改善された事案などがあれば、教えてほしい。

(応募団体)

- ・構成企業では年1回、全施設で実施している。業者に委託していて10月末頃から調査員が行い年内に報告が上がる。各評価表で判断、社員ミーティングの場で共有し参考にしながら運営している。施設によっては行政にも提出する。

(構成員)

- ・役員に女性の名前が記載されていないが、何故か。

(応募団体)

- ・構成企業には、優秀な者は多数いるが、役員にはいない状況。管理する14施設のうち4施設で女性の館長がいる。また、正社員の中での男女比は半々くらいである。今後は、女性の管理職も増えていくと考える。

- 構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入し発表。その後、構成員全員で意見交換。

(構成員)

- ・代表企業は、地元根付いた企業で、構成企業は、全国でも実績のある企業。安定した管理が期待できると思うし、熱心さが伝わった。
- ・施設活性化に向けたより積極的な提案があれば、なお良かった。

(構成員)

- ・年々利用者数を増やしてきたことは評価できる。安定した運営が期待できる。
- ・プールがリニューアルするが、構成企業の意欲や熱心さが伝わった。

(構成員)

- ・それぞれの強みを活かされた提案内容。ただし、新しい桃園プールを活かした提案には至っておらず残念である。
- ・二社の社風が違うように感じた。しっかり連携して管理運営にあたって欲しい。

(構成員)

- ・二つの事業者が特性を活かしている。
- ・新プールに関する、新しい自主事業の提案が欲しかった。

(構成員)

- ・構成企業に関しては、会社の歴史がまだ浅いため、財政的に弱い部分がある。
- ・代表企業に関しては、指定管理者の参入当初の迫力からすると少し弱い気がする。プレゼンテーションの説明も物足りなかったが、管理はできていけないのではないか。

5 検討会としての検討結果について

各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての各審査項目の評価レベルを下記のとおり、決定した。

1 指定管理者としての適性のうち、

- (1) 施設の管理運営に関する理念、基本方針については、3
- (2) 安定的な人的基盤や財政基盤については、3
- (3) 実績や経験などについては、4

2 管理運営計画の適確性に関する有効性のうち、

- (1) 施設の設置目的の達成に向けた取組みについては、4
- (2) 利用者の満足度については、4

効率性のうち、

- (3) 指定管理業務に係る経費については、3
- (4) 収支計画の妥当性及び実現可能性については、3

適正性のうち、

- (5) 管理運営体制などについては、4
- (6) 平等利用、安全対策、危機管理体制などについては、3

・施設利用の促進に関する積極的な提案は、あまりなかったものの、新たに共同事業体の構成企業として参加する企業に意欲を感じたことや代表企業の実績などを考慮すれば、堅実的な施設運営を行うことが期待できる。以上のことから、桃園市民プール等6スポーツ施設の業務を行うのに十分な適格性を有していると考えます。

・付帯意見については、特になし。